

No. 122
2025/12/1

ざんぐり



咲き誇るサルビアの花
10月24日「ようこそ秋の植物園へ」

・特別講座「南海トラフ巨大地震が発生する確率は?」報告	2、3	・秋の地域活動報告	10
・ミニ講座「ふれあいサイエンス」報告	4、5	・特別講座のご案内「認知症になったとしても活躍できる社会をめざして」	11
・秋のウォーキング報告	6、7	・見聞レポート	12、13
・ミニ講座「ようこそ秋の植物園へ」報告	8、9	・Small talk room	14、15
		・事務局だより	16



【共通講座】 『南海トラフ巨大地震が発生する確率は?』を受講して

日時 2025年9月8日(月)
講師 京都大学 防災研究所
地震災害研究センター教授 西村 卓也氏

冒頭に、「30年以内に南海トラフ巨大地震が発生する確率は?」という質問から始まりました。

「答えは80%」マグニチュード8~9クラス。

今回の共通講座で、地震発生のメカニズムや地震の予測などの専門的なお話を聞きました。

講師の西村教授は能登半島地震を4年前に予知した方です。それもわずか3cmほどが隆起している謎の地殻変動を観測されたということでした。

2001年ごろから「南海トラフ巨大地震」の研究が進み、2011年の東日本大震災以降、想定を超える大規模な地震や津波が発生したことから、個別の地震ではなく、より広範な地震活動として捉える必要性があるとされました。巨大地震のことを初めて聞いた時は、超巨大な怪獣が日本列島に襲いかかって来るかのような恐怖感を抱きました。次第に南海トラフも聞きなれてきたものの、迫り来る恐怖は増すばかりです。



災害から生まれた日本の美意識

日本列島は地震、台風、津波などの自然災害が繰り返し起こる宿命を背負っています。

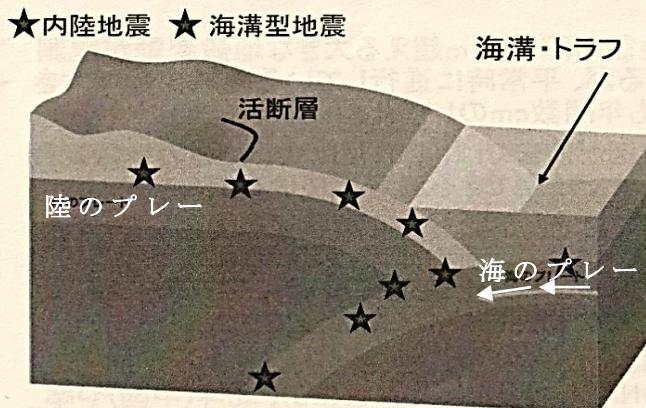
物事は常に移ろい、永遠不变なものはないという無常観が、「侘び」、「寂び」、「未完の美」、という独特的の美意識を生み出しています。その美意識は建造物だけでなく、自然観や人生観に大きく反映されていると考えられます。

侘び：簡素で静かな佇まいの中に奥ゆかしい趣きを感じるもので、華やかさや完全を求めるない、つましく素朴な美しさを大切にする感性。

寂び：時間の経過によって生まれる古びた風情や落ち着いた美しさをいいます。時間とともに朽ちていく中に、そのものの本質的な美を見出す感覚をいいます。

未完の美：完成しきってないものに美を見出すものです。完成は終着点なのでその先はないと捉える一方、未完成のものは、成長や変化の余地が残されていると考えます。

日本列島で起こる地震のタイプ



内閣府防災Webより(https://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h21/05/special_02.html)

- 日本列島で発生する地震は、発生場所により2つのタイプに分類される。

- 海溝型地震

- 海陸のプレート境界または海のプレート(スラブ)内で発生し、2011年東北地方太平洋沖地震、南海トラフ巨大地震が例。
- 規模(マグニチュード)が大きいものも発生し、津波を伴うことがある。

- 内陸地震(地殻内地震)

- 陸のプレート内あるいは境界で発生し、1995年兵庫県南部地震、2024年能登半島地震が例。
- 震源が浅いため、規模が比較的小さくても強い揺れにより大きな被害が出ることがある。
- 過去の内陸地震の痕跡が地表で確認できるものが活断層。

9



日本では、どれほど立派な建造物を築いても、文化財も、自然災害で一瞬にして破壊されてしまいます。住む家や家族をなくすという悲しい歴史を繰り返してきました。それでも、避けることのできない自然の脅威をマイナスに捉えるだけでなく、恵みをもたらす存在としても受け入れてきました。自然に対する畏敬の念です。

大自然を神として、お天道様を拝み、恵みの雨に感謝して、五穀豊穣を祈り、実ったものを奉納し、和をもって暮らしてきました。いいことも悪いことも、

すべて受け入れてきたことで豊かな心が育ち、日本独自の美意識が生まれたということに、感慨深いものを感じます。



私達にできること

日本列島では内陸地震と海溝型地震の2つのタイプがあり、2011年3月11日の東日本大震災、2024年1月1日の能登半島地震は海溝型地震でした。30年前に起きた阪神・淡路大震災は日本の歴史上初めての大都市を襲った内陸直下型地震マグニチュード7.3、観測史上初めて最大震度7を記録しました。多くの建物倒壊や大規模火災が発生。死者 6,434 人、多くの人命と甚大な被害をもたらしました。

日本では、この阪神・淡路大震災の後にGNSS 観測網が整備され、現在の GNSS は全地球衛星測位システムで、人工衛星からの電波を受信して微細な地殻変動も観測できるものです。活断層が集中している近畿地方は南海トラフに押されてひずみがたまっているとのことです。いくら観測システムが高度になったからといって、地震をくい止めることはできません。それでも多くの命を守るため、人類の歴史を遡り、過去の地震発生を調べ、統計モデルに基づき、将来発生する地震の規模や時期、場所などの予測を立てるという難しい研究に人生を懸け、地震や災害の発生予測や被害の削減を図ってくださっている研究者の方のお話を直に聞くことができたことで、地震に対して、先人の言い伝えから教訓を学び、「一つでも多く自分でできることを、今からしておかないと！」と、具体的な防災意識を持つことができました。

文：三尾 恵



2025年10月1日

「ふれあいサイエンス 3」 実施報告

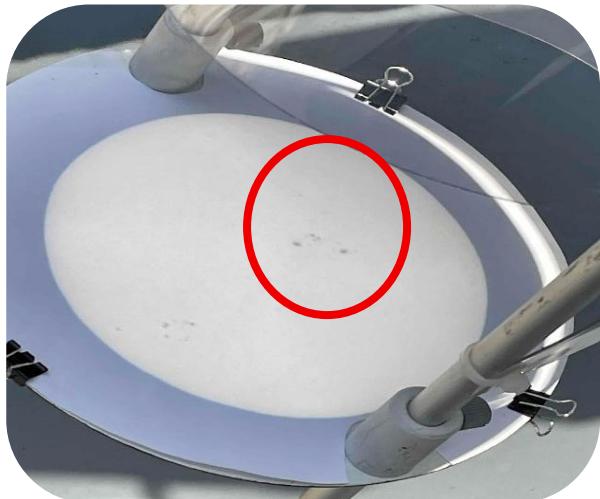
講 師 京都市青少年科学センター

展示係長兼天文係長 中井 祥平 氏



今年も第3回「ふれあいサイエンス」を開催しました。当日は22名の方が参加して、様々な科学を楽しみました。会場となった京都市青少年科学センターは、昭和44年(1969年)の開設。今年で56年目を迎えています。京都市内の小中学生も必ずこのセンターで学んでいるとのことで、当日の参加者も学生時代に来場したことがある方が数名おられました。

＜太陽の黒点観測＞



私たちをご指導していただいたのは、昨年に引き続き中井先生でした。大きな声でゆっくりしたトークで、受講生一同とても理解しやすかったと好評でした。今日のカリキュラムの中で、心配していたのが、太陽の黒点観測。太陽が見えなければ観察できません。幸いなことに、当日太陽は雲に見え隠れしていましたが、見事に望遠鏡を通して黒点を観察することができました。「これも皆さんのがけの良さですね！」と先生も一言。太陽の通常の温度は、6000度のことですが、この黒い部分は、それよりは低い部分であり、この小さいひとつ点は、地球ぐらいの大きさに相当するそうです。また黒点は刻々と動いており、

それを通じて太陽や地球の自転や公転を感じ取ることができました。

＜プラネタリウム「名画の中の星空」＞



このプラネタリウムは、光学式とデジタル式を組み合わせたハイブリッド式で、そのプログラムはセンターのオリジナルで、解説者の生解説で楽しめました。どこの視点から見ているのか(京都タワー)の謎解きから始まり、当日の星の動き、どのような星座がどの方向に見えるのか。また京都市内のライトを全て消すと驚くほどの星々が見える。そしていよいよゴッホや葛飾北斎が描いた月や星が登場。科学の視点で、どうしたらこのように見えるのか、謎を解き明かしていきます。解説者の方のさやくようなロマンチックな声が心地よく聞こえます。癒やされました。

＜「チョウの家」

武田薬品工業とのコラボレーション>





冷暖房完備のビニールハウスでは、沖縄に生息する3種類のチョウ「オオゴマダラ」「リュウキュウアサギマダラ」「シロオビアゲハ」が舞っていて、幼虫もたくさん葉に生息していました。沖縄で捕獲したチョウは、薄めたポカリスエットを飲ませながら運んでくるそうです。受講生の中には、チョウにモテモテの女性も！どうやら化粧品の中にチョウが好む成分が含まれているとのことでした。屋外の庭では、チョウと食べる草について教えていただきました。アゲハは柑橘系を好み、キアゲハはセロリやパセリ、モンシロチョウは大根やイヌガラシなどで、チョウ同士で一つの植物の葉を取り合うことはないということです。

＜青少年科学センターの見どころは他にも＞



センターに入って最初に目に飛び込んではいるのは、大きなティラノサウルスなど恐竜類の模型、ここ最近の研究の進化により模型も変化していることなどの説明いただきました。最後に、かつて京都市の南に存在した府最大の「巨椋池」で採集された100年前の生物標本

などの説明とその価値のお話を伺って本講座は終了しました。



＜終わりに＞

青少年科学センターは、開館以来56年を超えて老朽化が進んでおり、施設の維持や更なる充実のためふるさと納税制度を活用した寄付を募集しているとのことです。詳しくは、ホームページをご覧ください。「チャレンジ！ワンダーランド！」京都市青少年科学センターの益々の発展を祈念しています。今年も中井先生には、熱心にご講義や案内をいただき大ありがとうございました。



文 丸山 恭一



2025年10月20日 秋の健康トライアルウォーキング
琵琶湖疏水を行く S. M.

琵琶湖疏水は明治維新後、事実上の東京遷都の影響で急激に活気を失った京都の復興の鍵となった一大プロジェクトであった。

当時の府年間予算の約2倍という巨額を投じ、田邊朔郎による日本の技術と総力による画期的な事業となり今もその姿を留める。

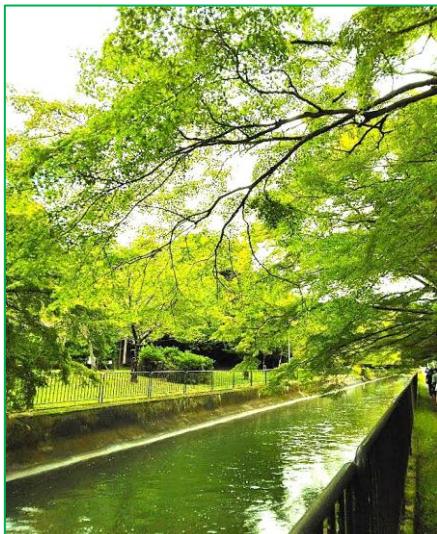
また、今年その諸施設が国宝・重要文化財に指定され、改めてその偉業が宣伝されたところである。



蹴上疎水公園
田邊朔郎氏の像

私たちは地下鉄蹴上駅から古の東海道を御陵へと向かう。今は車の往来で当時の街道の面影はないが、道端の記念碑等に往時が偲ばれる。御陵駅前で道を北にとり、急坂を山科疏水へと向かうが思いのほか汗をかかってしまった。

山科疏水は琵琶湖の水を京都へと送る水路で、137年を経た今も変わることなく流れている。



時を経て、両岸の景観に溶け合って独特的な景観を醸し出しており、両岸は地域の皆さんの中によって美しく整備されている。



私たちは坂を上った永興寺前の広場で休憩をし、疏水沿いを山科へと向かう。少し歩いた所の疏水の朱色の架橋は本圀寺への参道入口である。更に歩を進めたとき、上り便の疏水船に遭遇、船上の人々と手を振りエールを交換した。



天智天皇陵分岐で小休止の後、疏水はU字形となり安祥寺まで続いている。



休憩場所の第2トンネル入り口の扁額
「仁以山悦智為水歎（じんはやまをもってよろこび、ちはみずのためによろこび）」

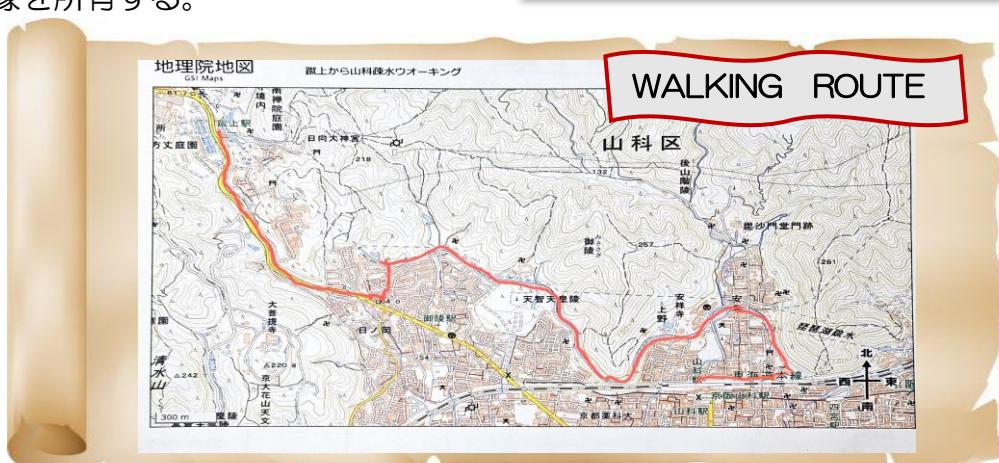
揮毫者：井上馨（初代外務大臣）
「仁者は動かない山によろこび、智者は流れゆく水によろこぶ」という意味。

底部はJR東海道線が真下を通る。安祥寺でも小休止、安祥寺は山科地域の古刹で、国宝の仏像を所有する。

歩を進め毘沙門堂門跡への分岐点一帯は春には菜の花が咲き誇り楽しませてくれるが、今はコスモスが私たちに短い秋を届けてくれた。



山科疏水巡りもフィニッシュ、四宮の山科乗下船場手前でJR山科駅への急坂を下り、全員無事に到着。楽しいウォーキングだった。スタッフの皆さんありがとう。又ね!!



同窓研修会：ミニ講座くようこそ秋の植物園へ>実施報告



日 時： 令和7年10月24日(金)
午前10時から12時
場 所： 京都府立植物園
京都市左京区下鴨半木町
演 題： ミニ講座くようこそ秋の植物園へ>
講 師： 青木 純子 氏
(京都府立植物園公認ガイド)
受講者数： 19人
(報告)

今夏は、猛暑が続き、植物も過酷な日々を過ごすことになった。ようやく涼風が吹き、秋の気配を感じるようになったが、痛手を受けた植物は、次のエネルギーを蓄えるため自らで工夫をし、静かに過ごしているように思えた。いつもなら、満開のコスモスが、北山門前に咲きほこり、来園者が感嘆の声で花を愛でる姿があったが、今年は、成長が遅く、背丈が低い茎に、けなげに咲くミニコスモスに心寄せ、思わず咲いてくれてありがとうのエールを送りたいと心が動いた。

ガイドをしていただく青木様も「例年ならば、秋の草花を紹介するところですが、少し、ガイドのシフトを変えて、樹木を中心に案内をします」と言われ、先ずは目の前の柳の紹介から案内が始まった。

柳は、四大文明のころから、その地に生息する樹木である。人間の生活と深い関係があり、解熱効果があることから、アスピリンが開発されるなど、医薬品の面でも役割を果たしている樹木であるそうだ。

園内の草木は、少し秋色に近づいているもののまだ、本格的な紅葉とは言えない。紅葉の色の変化についての話があり、赤い葉はアントシアニン、黄色い葉はカロチノイド、褐色はタンニンと紹介された。

さて、噴水前のイチゴノキ今年の花と昨年の花の実が同時期に咲き実るという不思議な木である。赤い実を見ると、手を伸ばして取りたくなるが、



学名に「unedo」の表記があり、「一回食べればもう食べたくない」という意味で、少し残念な実なのだろう。

次に針葉樹林へと進む。樹林手前には、カイズカイブキが、三角形の樹形で、裾を地面につくほどに広げている姿は、威風堂々としたものである。さすが、植物園開園と共にこの地に存在し、植物園の歴史を見てきた木として、どっしりとした姿で歓迎しているように見える。

その近辺には、赤い実をつけたモチノキ、良質ではないが、和紙など工業用(防水)の油を実から抽出するシナアブラギリ。身ぐるみはがす姿に似ていると異名をつけられた、表皮を落とし赤膚のバクチノキは、葉柄に蜜をためてアリを呼び寄せて害虫除去をするとは…知恵の限りはどこから?と思ってしまう。

木々の下には、日本のハーブといわれるフジバカマ、アサギマダラの蝶は、北国から移動する蝶であり、毒のある成分を持つフジバカマと共生しながら生きているそうだ。通路横には、見ごろを終えた萩の花が枝を広げている。萩の花の短歌を聞きながら花を観察、ヤマハギ(枝が立つ)ミヤマハギ(枝が枝垂れる)の特徴を知る。

そして、針葉樹林へと足を踏み入れ、太古の時代へとタイムスリップ…ジュラシックスギは南洋杉の仲間、葉の付き方に特徴があり、左右に向きを変えながら葉が伸びるので、葉の方向を見て樹齢を判断することができる。その隣には、ブラジルマツが、20cm大の大きな松ぼっくりをつけるそうだ。松の実も指先ほどの大きさがある。中国原産のハクショウマツは、幹の皮がまだらに剥がれて、白い斑模様になる。葉は三本が束になり、ハカ

マガないのが特徴。橋本関雪記念館 白沙村莊にあるそうだ。そして、針葉樹林の落葉樹、紅葉の姿が美しいメタセコイヤ(アケボノスギ)昭和天皇が愛された木だそうで、直立した姿が美しい。カヤノキでは、小野小町と深草少将の逸話も交えて話を聞く。葉を触ると葉の先が尖り痛い。葉がよく似たモミの木は、葉先が割れているので痛くないとか。徳川家康は、カヤの油で揚げたタイの天ぷらで大往生したとか。良質の油がとれるそうだ。青々と茂った針葉樹の下で、森林浴を…少々、疲れが増してきたところで、気分を変えて清々しい気持ちに…ちょうど、講座中間地点にて、シュウメイギクやバクチノキの小さい花を鑑賞しながら、休憩地の「四季彩の丘」へと歩みを進める。



サネカズラの棚の下で小休憩、サネカズラの茎葉の粘液は整髪料になるとか。休憩中でも青木様採取のヒマラヤシーダの松ぼっくりの実、漢方薬になるナツメの実、ハシバミの実のヘーゼルナッツ、アケビとムベの違い等、時間を惜しむかのように話をしてくださる。

一息ついたところで、四季彩の丘の植物探索へと歩みを進める。コミカンソウ、葉裏に小さいミカンのような実が可愛い。センナリバナナ、コキア(陸のキャビア)キンモクセイ、ギンモクセイ、コフクサクラ、そして、柑橘のエリアに大きなレモンの実に感嘆の声が…柑橘は、人の気持ちを癒し、爽やかにする効果があるようだ。枝がしなるほど大きなザボンの実に「わあ～」と感嘆の声が…高知のザボン最高！！です。

紅葉にはまだ早いモミジの木を見ながら、森のカフェ裏の中国の樹木エリアに、ピスタチオと同族のランシンボク、孔子廟にも植えられている。

孔子と縁が深いことから学問の聖木とされる。トチュウの木も興味深い、樹皮は杜仲茶として

愛飲され、実からは、ねばねばの成分が、糸状に出てくるのが面白く、皆さん驚きの目で見ておられた。チャンチンモドキ、オオモクゲンジ、カンレンボク、ニワウルシ、姿かたち、紅葉と見逃せないエリアである。

植物園、秋の最期を彩るフウノキの大木を見ながら、カジノキを鑑賞、和紙の原料、七夕の日には、葉に願い事を書いて笹に飾ったそうである。終着点は、植物会館前で講座を終えることに…おおよそ、植物園内を三分の二は回ったであろう、ウォーキングのように歩く距離もさることながら、内容の充実した説明を受け、皆さん、感謝の気持ちでいっぱいであったであろうと思われた。

秋の花の鑑賞をと期待された方もあるだろうが、生物のここに存在する意味等、様々な植物の生態を体で感じ取っていただいたことは、非常に有意義なことであったと思われる。植物は、過酷な状況におかれてもいつも前向きで、枯れそうになっても次に生き抜く力を蓄えていることを感じることができ、植物の強さを心にとめておきたいと思える講座であった。

そして、四季があり、季節によって彩られる日本の自然、自然と対峙しながら、豊かに生活を送ってきた私たちは、五感を通して、様々な感動を得、豊かな言葉で表現してきた。自然を心ゆくまで楽しめる環境を私たちは守っていくことの意義を自然の中で植物に触れて、さらに感じることができた。

最後に心を込めて、植物に対して愛情も持って案内してくださった、青木壽子様に御礼を申し上げます。有難うございました。



文：岩本照美

令和7年地域活動

第二回京都薬科大学日野薬草園見学

理事 亀山みさ子



実施日： 2025年10月9日（木）晴れ

台風接近のニュースで、天候が心配されたのですが、当日はすっきり晴れて、参加予定の14名が定刻前に集合して、地下鉄石田駅を9時15分に出発しました。

坂道をゆっくり登って、木々に囲まれた薬草園の正門に到着し、中に入れてもらいました。



夏の暑さで弱っていた蚊が、最近元気になつてるのでということで、沢山の虫よけスプレーが準備されていて、それぞれが体中にふりかけて、「すずめ蜂を見ても騒いだり手で払ったりしない。マムシがいるので草むらには入らない。」等の諸注意を受けて見学スタートです。



先生の声は、とても聞き取りやすく、内容も明快です。それぞれの植物のどの部分にどんな薬効があるのかの説明が続きます

生姜や麻黄に鎮咳や解熱の効果があり、市販の葛根湯に入っていること、夏の草花の日々草に抗癌作用があること、秋の七草は、どれも薬草であること、昔から民間で三大薬草と言われている「げんのしょうこ」「せんぶり」「どくだみ」にそれぞれ間違いなく薬効があること等々、いっぱい教えていただきました。



強い日差しのなかでしたが、薬草のかわいい花や小さな果実を見ながら、有益な話が聞けて、あつという間に予定の時間が終了しました。いい体験ができて、よかったです。



げんのしょうこ



せんぶり



どくだみ



特別講座のご案内

認知症になったとしても活躍できる社会を目指して

日 時： 2026年1月26日（月）
14時30分～16時

場 所： 京都文教大学

講 師： まあいいか labo きょうと代表
平井 万紀子 氏



京都文教大学へのアクセス

最寄駅は近鉄「向島駅」
地下鉄竹田駅と近鉄竹田駅は同じホームです。

向島駅は準急・各駅停車が止まります。

向島駅よりスクールバスで約5分
スクールバス時刻表

向島駅発：13時・14時
毎時：10分・25分・40分・55分

特別講座への参加申込方法

京都 SKY シニア大学の各コースを受講されている同窓研修会会員の方は、申し込みの必要はありません。大学を受講されていない会員の方は下記の要項で申し込んで下さい。

【申込期限】2026年1月10日必着

往復はがき又は、ショートメールで申し込んで下さい。

【記載内容】往復はがき：特別講座名・氏名・住所（返信用宛名にも）・電話番号を明記し下記宛にお送り下さい。

〒604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル ハートピア京都2階
(公財)京都 SKY センター内 京都 SKY 大学同窓研修会

ショートメール：特別講演会名を明記、氏名・を記入し下記問合せ先宛送信してください。

【問合せ先】[岩本照美 Tel090-2285-2265（ショートメールでの申込はこちら）](#)

【注意事項】同窓研の会員は同窓研に直接申し込んで下さい、無料です。

往復はがきでお申込みの方は、返信ハガキをお持ちください。

ショートメールでお申込みの方は、返信メールをご確認ください。

当日は京都 SKY 大学同窓研修会会員証をお持ちください。

！ SKY センターへの申込は、同窓研の会員以外の扱いになり有料となります。



京都SKYシニア大学『京都見聞コース』レポート紹介

6月18日三千院 6月25日醍醐寺 7月2日南禅寺

三千院 龍見英子さん

6月の三千院はアジサイの原種とモリアオガエル。池の木に泡の卵が今までより沢山有りました。外国人観光客と共に庭園を巡り、苔がふわふわ。



往生極楽院、「東洋の宝石箱」と言われた当時は青色ブルーに天女が舞う。舟形天井に納まっているのは阿弥陀如来。右は觀世音菩薩、左の勢至菩薩は知恵の仏(知識では無い)



青蓮院、曼殊院、毘沙門堂と共に天台宗五箇室門跡の一つで、天台座主を輩出してきた。仏に手を合わせる時、「お願いするばかりで無く」自己を大切にし「ありがとう」と手を合わせてお参りしましょう。

醍醐寺 K・Mさん

宗派：真言宗

本尊：薬師如来(病を癒し苦しみを除く)両脇に日光、月光菩薩。

金堂：豊臣秀吉の命により紀州から移築されたもので、内陣と外陣の境に結界や間仕切りがないという特色がある。

五重塔：醍醐天皇の冥福を祈るために建立された、京都府下で最古の木造の建造物。相輪部が塔全体の1/3を占めている。

・三宝院について

本尊：弥勒菩薩(未来の仏様で弥勒仏となって新しい仏教を広める)快慶の最高傑作ともいわれ、脇仏として右に弘法大師、左に理源大師が安置されている。

庭園：豊臣秀吉自らが基本設計をした庭園で亀島、鶴島の2つの島があり、対岸が仏様、手前が婆婆を表している。また源平合戦の藤戸の戦いで、浅瀬を渡る際に利用された場所にあって戦いの勝利を象徴する石が細川→織田→豊臣の手に渡り三宝院に据えられ「藤戸の石」と呼ばれている。

・法話より

・仏教の教えは顯教、密教、修験道からなり存在を分析するものである。

・布施とは見返りを求めずに何かをすることでめぐりめぐって後の世代に返ってくるので、徳をつむ。

・日本の文化はゆずりあう(和合)文化であり、これにより命を継がれてゆく。



南 禅 寺

杉本繁さん

鳴くよ鶯
(794年)平安
京のような語
呂合わせもな



く『臨済宗栄西・南禅寺』ついでに『曹洞宗・道元永平寺正法眼藏』の呪文の如く記憶したのが懐かしい。ところが、資料読めども『栄西のえの字もない』南禅寺には栄西建立と勝手な思い込み、これを正すことから始まった次第。

“拈華微笑”と初見の漢字・言葉からの法話、日常の譬え話を交えて平易に説いていただいた。座禅体験も怯えていたものとは大きく異なり胡座無理な者には助かった。続いて狩野派代々の襖絵観賞を経て特別に法堂内部、直に拝むことで圧倒された。さらには三門にも上ることができ、TV番組でしか見たことがない内部も拝観、息も絶え絶えながら、十二分に堪能できた。

果たして『空・無相・無願』の三解脱に一歩でも近づけただろうか・・・。否とんでもない奇しくも靴は百八番に置いた、煩惱は尽きず。



50年余り前の学生時代、同級生が当時塔頭の南陽院で下宿、よく酒盛りをしたのも懐かしく『何と立派なところで・・』と懐古的な回顧録。『何と(710)立派な平城京』それは奈良の都の語呂合わせ。

菅原良輔さん

学生時代銀閣寺の付近に住んでおり、哲学の道を通って良く南禅寺に行った。南禅寺は広大な境内と多くの塔頭寺院をもち、また琵琶湖疏水が通っている。

〈法話と座禅〉まず「龍淵閣」で教学部長の家永昌道師(69歳)より法話を伺う。「拈華



微笑」(とらわれない微笑を返したい、いつでもどこでも誰にでも)など。次に座禅の作法を教わり実行するがなかなか無我の境地になれない。

〈方丈〉狩野永徳、狩野探幽らによる襖絵、虎の子渡しの方丈庭園など見どころが多い。また琵琶湖疏水の一部である水路閣が見え隠れする。

〈三門〉三門楼上は冬の旅とか特別な時しか上がれなかつたが、今は通年公開しているようだ。今回特別に内陣も見せていただく。本尊は宝冠釈迦で左右に十六羅漢、徳川重臣の位牌が祀られている。

〈法堂〉法堂は法式行事や公式の法要が行われる場所であり、これも特別に見せていただく。須弥壇上中央に本尊釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩を安置しており、天井に瑞龍図が描かれている。鳴き龍ではないようだ。

〈帰雲院〉龍淵閣の左隣にある塔頭寺院である。靈園があり身寄りのない人の永代供養をしていただける。大学でお世話になった方がここに眠る。南禅寺に行ったついでにここに立ち寄ることにしている。

今回案内してくださった僧侶の方、同窓研修会の方に感謝します。

Small talk room

小説「饅頭伝来記」ゆかりの地を訪ねて (その2) 井上昌幸

建仁寺塔頭・両足院

京都・祇園の建仁寺は栄西によって1202年に創建された臨済宗の大本山で、参拝客で賑わっている。その境内の一角にあるのが塔頭・両足院。

その案内パンフレットには、『「饅頭始祖の寺」として有名で、龍山徳見の弟子のひとりである中国の僧・林淨因(りんじょういん)が、龍山和尚の帰国とともに来日し、両足院にて「饅頭」の文化を日本に伝えた事を由来としている』とある。その子孫は応仁の戦乱時、三河の国・設楽郡塩瀬に住み、それ以降塩瀬姓を受け、屋号を塩瀬と名乗った。

両足院の歴代は林家出身者が多い。特に、淨因から7代目の林宗二(1498~1581)は饅頭屋のかたわら「饅頭屋本 節用集」(当時の辞書)を編纂したほか、漢籍、易学に詳しく、また「唐宋詩文抄」や「源氏物語林逸抄」を著すなど、文化人、町人学者として活躍した。それらの資料は今も両足院に伝わっている。なお奈良の林神社では、饅頭屋本の発行に因み、全国印刷月間中の9月15日に林宗二の顕彰祭が行われている。



両足院・墓所の饅頭屋町合塔

林家の墓所は両足院にあり、一族の歴史を記した「合塔」が設置されている。

京都市中京区 饅頭屋町

烏丸通の三条通と六角通の間にある町名。江戸時代の記録に、『「まんぢうやの町」此町の饅頭屋は日本第一番饅頭の初なるよし家名の書付にあり』と記されていて、饅頭屋発祥の地とされる。

『頂法寺の阿彌陀堂西門のありし所とす。當時塩瀬九郎右衛門と云う者此町に棲して、饅頭舗を開きしより称となる』とある。

林宗二の孫・宗味は茶事を愛し、後に千利休の孫娘を娶り、家業の饅頭の傍ら、茶帛袱紗を製して商った。「塩瀬袱紗」として今に伝わる。茶道と深く係わることで饅頭は茶菓子として技術も発達して行った。

現在は、ホテルモントレ京都、六角長谷ビル、な



現在の饅頭屋町付近

どのビルが林立していて、昔の面影は無い。

吉田山・菓祖神社

左京区吉田山の麓に鎮座する吉田神社本社の境内にある。祭神は田道間守命(みかんと菓子の祖神)と林淨因命(饅頭の祖神)。京都菓子業会の

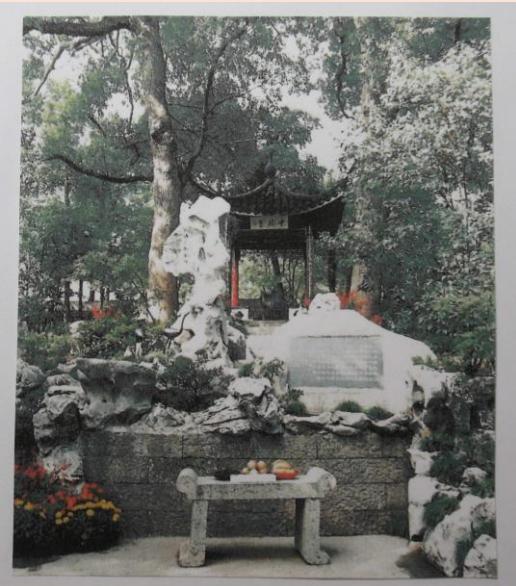


菓祖神社

総意により、昭和 32 年 11 月 11 日に、和歌山県橋本神社と奈良県林神社の祭神を鎮祭。春祭は4月 19 日、秋祭は 11 月 11 日。

中国・西湖畔の林淨因顕彰碑

1986 年 10 月、中国・西湖の畔、柳鶯公園の吳越時代の皇帝の花園・聚景園に大胡石を用いた優雅な碑「日本饅頭創始人鹽瀨始祖林淨因記念



林淨因記念碑

碑」が完成した。塩瀬総本家の 34 代店主 川島英子さんが饅頭の祖・林淨因を顕彰するため、杭州市当局を説得して、彼の故郷に作った碑である。

龍山和尚が亡くなった後、淨因は寂しさに耐え切れず、望郷の念に駆られて妻子を残して中国に

帰った。残された妻子はどんなに寂しかったのか？その妻子の気持ちを察した川島さんは、何とか魂を慰めたいと、碑の建立を思うに至った。饅頭の歴史を継承する者として、その祖を顕彰し、報恩と供養をするとともに、食文化を通じて日中友好の絆をさらに深めていく機会になると。

毎年 10 月に、西湖の碑の前で「饅頭祭」を開催して淨因を偲ぶと共に、中国への感謝の気持を表している。2014 年の第 28 回と 2015 年の第 29 回の 2 回、「林淨因の碑」を訪ねる旅に参加した。当時は日中の国交関係が緊張して開催が危ぶまれたが、現地の日本感情はよく、緊張しながらも、ほっとしたことを懐かしく思い出す。

奈良・林小路町

奈良・林神社に接した林小路町の靈巖院に、林淨因を祀った小さな塚と碑がある。「我国饅頭之祖林淨因塚」と「饅頭祖林淨因碑」。それぞれの裏面には饅頭商と思われる発起人の名が連ねてあり、林淨因が古くから饅頭商の間で慕われていたことがわかる。



原稿送付ご案内

メール：skydosoken@gmail.com まで

Word・Excel・写真類は JPG 形式で

郵送：〒604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル

ハートピア京都 2 階 京都 SKY センター内

京都 SKY 大学同窓研修会「ざんぐり」編集係宛

- ❶ 原稿に関連した写真も添えて下さい。
- ❷ メール、郵送とも、お名前、連絡先（ 番号）を明記ください
- ❸ 匿名を希望される方は、その旨明記ください
- ❹ 投稿は同窓研修会会員限定とさせていただきます。
- ❺ 投稿多数の場合は編集担当による選考となります。
- ❻ お送りいただいた原稿の返却は致しかねますのでご了承下さい。

事務局便り

行事予定・ほか



＊新春バス研修旅行

- ・開催日 2026年1月30日（金）
- ・行先 兵庫県赤穂方面

＊詳細は同封別紙参照

＊特別講演会

- ・開催日 2026年1月26日（月）
- ・会場 京都テルサホール（京都市南区）
- ・テーマ 認知症になったとしても活躍できる社会を目指して
まあいいか labo きょうと代表
- ・講師

＊詳細は本文 11 ページ参照

＊京都見聞こぼれ話

第 19 号「二条城の輝いていた時」をお届けします。



発行 / 京都SKY大学同窓研修会
編集 / ざんぐり編集委員会

〒604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル ハートピア京都2階
公益財団法人 京都SKYセンター内 ☎ 075 (241) 0226 FAX 075 (241) 0204